

南山拠点の城

鳴山城跡(南会津町)・久川城跡(南会津町)・九々布城跡(下郷町)



鳴山城跡

鳴山(しぎやま)城跡は、長沼氏が15世紀頃、愛宕山頂に築いた山城です。北を大手口とし、山麓に城下町があります。南側は、急な尾根で、東は崖となり、西は尾根で区切られています。北側だけに開け、平場や土塁、石垣が造られています。慶長3年(1598)直江兼続の弟、大国実頼によって二重土塁で区画された総構えの城に大改修されています。



久川城跡

南会津地方の中央には、河原田氏が住んでいました。戦国時代、伊南古町の南東、標高約800mに山城の駒寄城がありました。河原田盛次は、天正17年(1589)伊達政宗の進攻に備え、駒寄城と城下町を移し、新たな拠点として久川城を築きました。上杉時代は、清野長範がいました。



甲子道路

九々布(こうぶ)城跡は、二重土塁や総構えとなる山城で、鳴山城を小さくした構造になっています。慶長5年(1600)頃に上杉氏家臣佐藤一族が築城しています。



九々布城跡